

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

目指す学校像	視覚障害児者の発達と自立、社会参加を支える拠点となる学校
--------	------------------------------

重点目標	1 視覚障害教育の専門的機能を充実する。 2 参加と共同による開かれた民主的な学校づくりをすすめる。 3 健康で豊かな学校生活を築く。 4 充実した教育環境づくりに取り組む。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	学校関係者	8名
	生徒	7名
	事務局(教職員)	70名

*「生徒」は、幼児・児童・生徒を表す。

学校自己評価					学校関係者評価			
年度目標					年度評価(2月1日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	生徒や保護者、地域のニーズに応えた視覚障害教育に取り組んでいる。視覚障害のある生徒一人一人に応じた自立と社会参加に向けた生きる力を育成する必要がある。	特別支援教育及び視覚障害教育の専門性と実践力を向上する。	①点字、歩行、視覚補助具の適切な活用や障害等について理解する研修をとおして、専門性の向上に取り組む。 ②実践をとおした学び合いをとおして、分かる授業の実践力向上に取り組む。	①障害等を理解し専門性を向上することはできたか。 ②授業研究、研究協議による学び合いをとおして、分かる授業を実践することはできたか。	①点字、歩行、視覚補助具の適切な活用や重複障害のある生徒への指導等について、自立活動委員会、教育研究部が中心となって様々な研修会を計画的に行い、専門性の向上に取り組むことができた。 ②新学習指導要領についての教務部による全体研修会、教育研究部による授業研究や研究協議をとおして、教職員の学び合い等による授業の実践力の向上を進めることができた。	B	①教育研究部を中心に全校研究テーマを設定し、視覚障害をはじめ特別支援教育の専門性の向上に取り組む。 ②授業研究、公開授業及び研究協議等をより効果的に活用するために、教務部、教育研究部を中心に授業に生かせる方策を検討する。	・点字指導、歩行指導は、中途失明をはじめとする視覚障害者にとって、社会的自立に向けて大切であるためさらなる充実を期待している。 ・進路指導では、進路先等の一覧表が掲示されていてわかりやすい。進路に関わる情報提供をさらに工夫することが必要である。 ・アンケートの結果から、より良い授業づくりについてさらなる期待がうかがえる。今後も、授業の充実に取り組んでいただきたい。 ・塙保己一学園に入学したらこそ身につけることができる歩行指導、点字指導の教育活動のさらなる充実を期待している。
2	・県内全域から視覚障害教育に対する支援の要請がある。一方、県民の中には、本校のことを知らず適切な支援を受けることができていない方もいる。視覚障害教育の理解を広め、県内唯一の視覚障害特別支援学校、中核機関としての支援の充実を進める必要がある。	①センター的機能を充実する。 ②本校の取組について情報発信し視覚障害教育の理解を進める。	①巡回相談や教育相談会を計画的に実施し、支援要請に適切に対応する。 ②HPや各種行事等をとおして、本校の理解啓発に取り組む。	①巡回相談や教育相談会を計画的に実施し、支援要請に対して適切に対応できたか。 ②HPや各種行事等をとおして、本校の取組を、情報発信することはできたか。	①相談支援部を中心に、年間を通して、県内全域を対象とした視覚障害の支援要請に対して、高い専門性を発揮し適切に対応できた。 ②高等部専攻科、相談支援部を中心に、県庁オープンデー、ワークフェアなど本校の教育活動の積極的な公開、全国盲学校フロアバレーボール大会2連覇など、HP、メディアを活用し、本校の理解啓発活動を積極的に、効果的に実施できた。	A	①県内唯一の視覚障害特別支援学校として、県内全域の支援を充実するために、今後も、市町村教委等と連携し本校の支援体制を広報し、適切に対応していく。 ②本校のよさを中心とした理解を深めるために、情報部を中心により効果的な発信の在り方を検討する。	・県内唯一の視覚障害特別支援学校として、県内からの様々な要請に対して、高い専門性を発揮して、適切に対応できているので、すばらしいと思う。要請に応えるためにも、さらなる関係機関との連携が必要である。 ・各種スポーツ大会をはじめ県庁オープンデー、職業教育ワークフェア、地域の行事に参加し交流を深めながら、本校の教育活動を紹介したりし、よい情報発信ができています。アンケートでも高い評価を得ている。 ・この学校のよさやこの学校で学ぶ意義を学校外の方にHP等をとおしてさらに発信する必要がある。あん摩マッサージ・鍼・灸の魅力について、さらに広報してもよい。
3	・保護者、地域、教職員が一層の連携を図り、生徒が健康で豊かな学校生活を築く教育活動を進めている。視覚障害のある生徒一人一人が自立し、社会で生きる力をつける教育の実践をする必要がある。	①生徒、保護者と教職員の思いが生きる教育活動を進める。 ②地域との連携を進めながら、生徒、保護者、教職員が一体となり、教育活動を進める。	①生徒、保護者の願いを受け止め、保護者と教職員が連携して、生徒を伸ばす個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成する。 ②学校づくり協議会等を実施し、生徒、保護者、評議員、職員との協議をとおした意見を、学校運営に生かす。	①保護者と教職員が連携して、個別の教育支援計画個別の指導計画を作成できたか。 ②学校づくり協議会の意見を学校評価に反映できたか	①面談、日常のコミュニケーション等をとおして、保護者と教職員が一体となって、個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し、より実態に即した具体的な指導に向けて取り組んでいる。 ②学校評議員、PTA役員、交通機関との協議、保護者との定期的な懇談等をとおして、関係者からの意見を学校運営に生かすことができた。	A	①多様化している生徒の実態に即した支援プランの作成、具体的な指導をより充実させるために、今後も検討を進める。 ②学校づくり協議会をはじめ生徒、関係者の声を学校運営に生かすために、より様々な機会、方策を引き続き検討する。	・アンケート結果から、保護者と教職員が連携した個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成が進んでいることがうかがえる。引き続き、生徒や保護者からの意見を受け止める機会を大切にして進める必要がある。 ・生徒の発表を聞いてみると、生徒が主人公になっていることを基本とした学校であると感じられる。 ・生徒自ら自己発信できることは大切であり、社会では、そのことで苦労されている方が多いのではと思う。 ・生徒達は立派に育っていると思うが、生徒の困り感や不安感については、晴眼者では限界がある。卒業後を見据えた時、当事者目線で受け止め、助言ができる視覚障害者である相談員がいると適切な助言ができる。
4	・個に応じた指導を充実させるため、特別教室等を活用している。教室不足や生徒の障害の多様化、ニーズ等に対応するため、寄宿舎を含めた環境整備が必要である。	教育活動を支える環境整備を進める。	①視覚障害教育の教育活動を支える寄宿舎を含めた施設設備、教材教具を整備する。 ②平成30年4月に開設した東洋療法研修センターの運用を推進する。	①教育活動を支える環境を整備することはできたか。 ②センターの運用を推進することはできたか。	①視覚障害教育を支える施設設備等の整備について、企画委員会を中心に各学部、PTAと連携し、現状の課題確認を適切に行えた。 ②本年度は全盲(新卒)と弱視(既卒)2名の研修生を受け入れ、就労をめざした校外での実践的研修やリンパドレナージ等の高度な技術の習得のために指導・引率体制を捻出して取り組み、介護施設への就職にもつながった。	B	①将来構想を学校全体で取り組み、今後を見据えた施設設備等の環境改善を、具体的に進めていく必要がある。 ②今年度より始動した東洋療法研修センターの基本整備のための人的・物的・予算的保障が必要である。	・全県を学区としていることから、寄宿舎を希望する生徒へは全泊できる施設設備の環境整備が必要である。 ・埼玉県の理療教育の充実を推進する東洋療法研修センターとして、円滑に運営をしていくためには専任の人員配置が不可欠である。今後、センターの環境整備が進むことを期待している。

